

道内産めん羊における志賀毒素産生性大腸菌及び サルモネラ属菌の保有状況

稲田和也^{1)†} 大野祐太²⁾ 石田祥士¹⁾ 清水俊一¹⁾ 本郷健雄¹⁾

1) 北海道早来食肉衛生検査所 (〒059-1433 勇払郡安平町遠浅 695)

2) 北海道立衛生研究所 (〒060-0819 札幌市北区北十九条西 12)

(2022年9月4日受付・2023年10月16日受理・2024年2月3日公開)

要 約

めん羊における志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) とサルモネラ属菌の保有状況を明らかにするため、と畜場に搬入された北海道内で飼育しためん羊の糞便を調査した。STEC はめん羊の直腸便 60 検体を検査し、19 検体 (31.7%) から 21 株、また、サルモネラ属菌はめん羊の直腸便 103 検体を検査し、34 検体 (33.0%) から 36 株を分離した。STEC の血清型のほとんどは型別不能だったが、国内外においてヒトへの病原性が知られる *eae* 遺伝子、*stx1* 遺伝子を保有する STEC O103:H2 が分離された。また、サルモネラ属菌は血清型の多くは血清型 III b 61:-:1,5,(7) であり、*Salmonella* Typhimurium 単相変異株の *S. enterica* 血清型 4,[5],12:i:- や *S. Rissen*, *S. Derby*, *S. Newport* も分離された。今回の結果から北海道内で飼育しためん羊は STEC 及びサルモネラ属菌を保有することが明らかとなり、牛や豚などの他の家畜同様にと畜処理時にめん羊の糞便を介し、と畜場や枝肉を汚染する可能性が危惧された。

—キーワード：サルモネラ属菌，めん羊，志賀毒素産生性大腸菌。



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/2/77_e14/_article/-char/ja

-----日獣会誌 77, e14～e20 (2024)